

国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第17号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL http://www.nuis.ac.jp

カナダ

アルバータ州立大学

「カナダに戻りたい」今回のカナダ研修に参加したメンバーに会ったとき、必ず出てくるのがこのセリフです。5週間の研修を終え、約3ヶ月が立ちますが、今でもカナダで過ごした楽しい日々を思い出しつづけます。

カナダ研修では、朝8時から週4日4時間英語の授業がありました。文法はもちろん、ゲームやグループに分かれて旅行の計画を立てたり、実際に様々な授業内容でした。午後にはカナダの「関連企業の訪問」や「実際のビジネスシミュレーション」など、様々な体験が用意されていました。その中でも、私が印象に残っているのは、ホームステイです。私のホームステイ先は、6歳の元気な男の子と、1歳のかわいい女の子がいる常駐ファミリーです。6歳の元気な男の子と「歳のかわい女の子がいる常駐ファミリー」に、私はホームステイをすることによって、よりカナダに近づけたような気がします。カナダに来た当初、モータースポーツが大好きで、私はホームステイをすることによって、よりカナダに近づけたような気がします。カナダに来た当初、モータースポーツが大好きで、私はホームステイをすることによって、よりカナダに近づけたような気がします。



Faculty Social (パーティー) 会場のホテル前で

カナダ・アメリカへの留学

アメリカ

ノースウエスト・ミズーリ州立大学

今回の初めての留学は私にとって、世界に目を向けるとても大きなチャンスになりました。

授業はもう一つ英語で、第二言語として英語を勉強している人達とクラスに入ったので、クラスメイトの半分は外国人からの留学生でした。聞き慣れない日本人以外の発音や話すスピードについていけなくて戸惑うこともありましたが、母国語を通さずに英語で色々な人と話ができるということがとても嬉しくて授業も楽しかったです。

ルームメイトやカンパシーンパートナー、先生方ははじめの声をかけてくれて、勉強はもう一つそれ以外のことも本心に本心にシニアやバッドランドなど普段行かないような所にも行きましたが、ラックを肌で感じる事が出来ました。

今回の留学で一番大変だったのは毎日出される宿題で、語彙力のな私にとっては人一倍時間がかかり、毎晩夜中まで宿題に追われていました。大変だったけれど、日本とは違いうアメリカの授業のスタイルを体験で勉強した事が実際に役立つというので生懸命やって本心によかったなと思います。

たった5週間という短い期間ではあったけれど、このプログラムに参加して多くの時間を過ごし、沢山の刺激を受け、日本にいたらできないような経験が出来て、とても有意義な留学になりました。



サウスダコタにて

今年も恒例の夏季のカナダとアメリカへの短期留学を無事終了しました。カナダのアルバータ大学へは、情報システム学科学科生を中心に17名が8月4日から9月8日まで、アメリカのノースウエスト・ミズーリ州立大学へは、13名の情報文化科学科生が8月16日から9月20日までの日程で行って来ました。

留学便り

2002年度派遣留学現地報告

今年も、情報文化学科の2年生が、後期にロシアの極東国立総合大学と中国の北京師範大学と韓国の慶熙大学に留学しています。それぞれ、11月末時点での生き生きとした現地報告を送ってくれました。

派遣留学便り

慶熙大学

韓国

情報文化学科2年 富山 宏美

韓国へ留学に来て3ヶ月が過ぎた。最初の頃は言葉や生活習慣の違いですら、大変だと思つたこともたくさんあった。言葉の面では、普通の食堂で注文することですらドキドキしていた。しかし、授業や、韓国人の友人と話していく中で、次第に相手の言っていることが理解できるようになり、それにつれて韓国生活も楽しくなつていった。語学の授業は「授業」という感じがしない。みんな早く語学を身につけて韓国生活をより充実したものになりたいと思つているので、自然に授業にも身が入り、積極的に学ぼうとする。そうやっていくうちに少しずつ聞き取れるようになり、片言でもしゃべれるようになった。

韓国語がわかるようになることは、韓国人と話せるだけでなく、韓国で韓国語を勉強している外国人とも話せるようになることを意味する。私たちのクラスは日本人だけでなく、中国、ロシアなど様々な国から来ている留学生がいる。彼らとの共通語は韓国語だ。韓国語がわかつてくれば彼らとコミュニケーションがとれるようになり、自ずとそれぞれの国の文化や価値観を学ぶことができる。これは自分の様々な考えを見直し、磨きあげるうえで良い機会となった。



留学生生活も残り1ヶ月を切った。引き続き韓国語を勉強しながら、多くの場所へ出かけ、いろんな人と触れ合つて、韓国の歴史、文化を感じ、より深く学んでいきたい。

派遣留学便り

北京師範大学

中国

情報文化学科2年 鶴木 裕美

私が中国に来たのは、語学力の向上と異文化体験をしてみたいという理由からでした。私は週に度中国人の友達と交流をしているのですが、授業で習ったばかりの言葉が頻繁に会話に出てくるので、生きた言葉を習得していることを感じます。私たちは日本人同士でも極力、中国語を話すようにしているのですが、会話することにより習ったことが生かされて語学力が向上するのではないかと思います。

そして、何よりも私たちは自分たちでどうにかして中国で生きていかなければなりません。買い物でも中国は物価が安いこともひとつの魅力なのですが、値段交渉をしてより安く買う事ができます。そのため



には、ある程度の言葉が必要になりますが、その値段交渉がとても楽しいので、自然と市場会話が身につきます。私は中国に来てこの追いつめられた環境が語学力を向上させていくと思っていました。

また、私たちは土日にはバスや地下鉄やタクシーに乗って北京中を駆け巡り買い物や観光を楽しんでいるのですが、最初中国に来たときは自転車と人の多さにびっくりしました。文化や生活の違いを肌に触れ、驚きと発見がある新鮮な毎日を送っています。このような体験は、生に度あるかなにかの体験ですし、世界観が広がり精神的にも大きく成長できたと思うので、中国に来て本当に良かったと感じています。

そしてこのような留学制度を設けてくれた大学と行かせてくれた両親に感謝をいきたいと思います。将来私は、中国に関わる職業に就きたいと考えているので、日本に帰つても努力していきたいと思っています。

派遣留学便り

極東国立総合大学

ロシア

情報文化学科2年 神丸 晴好

先日、日本語スピーチコンテストが開催され、日本とロシアに関する事をテーマに、児童生徒及び学生、社会人を中心に催され、私も足を運びました。私は彼らの語学力も

さることながら日本の歴史、文化など多方面にわたる教養の深さに圧倒され、将来の日露の掛け橋の雄姿を感じました。私はこの留学での学生たちとの交流を活かし、より深くロシアを知りたいと思っています。

情報文化学科2年 田沢 諭子

今、私は極東国立総合大学の中のロシア語学校で勉強している。毎日行われるロシア語の授業はとても面白い。また授業で習った言葉を、街に行き使用できるということが留学のよい点だと思う。市場の人々は私のロシア語を聞き、直したりほめたりしてくれる。優しい人が多い街だと思う。そんなウラジオストクが私はとても気に入っている。語学以外にも学ぶことの多い留学生活。自分を成長させて帰国日を迎えたい。

情報文化学科2年 上林 幸恵

私のロシア観は、ほとんどアバウトであることだ。ロシア人は人と会う約束や授業にちゃんと時間通りには行かないのだ。日本だと5分前行動などと言われたことがあるが、必ずと言っていいほど、ちゃんとした時間に来ない。いい意味で言うところ、ロシア人は時間を気にしないというところであり、悪く言えばほとんど適当だということだ。最初の頃は日本と何もかも違つて慣れるまでには大変だった。日本人にはなじみにくいかもしれないと思った。



「派遣留学制度」を利用して

平成13年度卒 林 祐輔

1999年9月から2000年1月まで、私は新潟国際情報大学として初の「派遣留学制度」を利用し、北京師範大学へ留学した。留学生活では、語学はもちろん、中国の文化、歴史を実際に体験することにより、日本では見ることのない中国に接することができた。留学後、中国に大変興味を持つようになり、仕事も中国と関係のある仕事を希望し、中国と関係のある企業を中心に就職活動を行った。そして今私は、新潟にある明和工業で海外事業担当として働いている。当社は水管理、仮設配管、不凍速凍空気弁、緊急用貯水槽等の水に関係する商品を取り扱っており、私の所属する海外事業担当は、当社で使う部材や商品を中国から輸入する業務である。10月には初めての上海出張に行つて来たが、力不足により仕事としては満足できなかった。出来なかったが、同年代の中国人とも接し、彼らはしっかりと自分の意見、考えを持っており、こうしたしっかりした若い世代が最近書しい中国発展の原動力の一つになっているのではないかと感じた。出張後は改めて痛感した自分自身に足りないものを鍛える為毎日勉強し、中国でビジネスをするにあたり必要な知識を学んでいる。現在会社に貢献できることはまだまだ少ないが、自分の希望した職業に就けたこと、今後も努力していこうと思う。



2003年度 留学スケジュール (予定)

12月	参加仮申込み(アメリカ)
1月	参加学生最終決定(アメリカ)
4月	参加仮申込み(ロシア・中国・韓国) 履習登録時参加申込み/事前研修開始(カナダ) 事前研修開始(アメリカ)
5月	参加学生最終決定/事前研修開始 (ロシア・中国・韓国)
6月	参加費の支払いと誓約書の提出
7月	歓送会(奨学金授与式)
8・9月	留学開始

※詳細については、学務課まで。

卒業研究

本学では両学科とも問題発見・解決の能力を養うことを目的として、卒業研究を課しています。

情報文化学科では、多様な授業科目からなる学際的カリキュラムの中で、自分が特に何を学びとったのか、論文としてまとめる重要な科目です。ゼミでの卒業論文の作成の過程で自分の課題を明確にしつつ、自分の研究成果の専門性を高めます。

情報システム学科では、それまでに修得した知識をもとに、情報システムの計画・設計・開発・運用及び情報資源／情報技術の活用をめぐる問題をとらえ、それに対する解決策を提案し、その効果について論じます。

ただし、両学科とも3年生終了時に決められた科目の中から100単位以上修得していないと卒業論文に着手することができませんので、計画的な履修が必要となります。尚、本学のホームページの卒業論文データベースでは抄録の検索が可能です。

本文の閲覧をご希望の場合は学内情報閲覧室でご覧下さい。

情報文化学科では、11月に中間報告会を開催いたしました。これは3年生が企画と実行により、教員も全員参加して行われました。その実行委員長を務めた松田さんより当日の様子を紹介いただきました。尚、情報システム学科は、卒業論文の発表会を2月に予定しています。

情報文化学科卒業研究中間報告会

情報文化学科3年 松田 渚

11月9日に烏合会を開催しました。烏合会とは情報文化学科4年生による卒業研究の中間発表会です。烏合会は、学生が中心となり、烏合会というマイナスイメージの強い言葉を逆手に取って「規律のない自由な発表会」を作り上げようと、去年初めて企画されました。学生が発表会を作り上げることに大きな意味があると考えているので、3年生の各ゼミナール代表が中心となり、ポスターやパンフレットの作成、当日の動きや会場設営など、約一ヶ月間関わって、週回の話し合いを設けて準備を続けてきました。

4年生にとっては、これまでの研究を伝え、これからの研究の参考となる質問やアドバイスをもらうことができる場として、3年生にとっては卒業研究のテーマなどを考えるチャンスとなる場として期待していました。当日、司会者として参加した私から見た烏合会は「成功」と言えるのは首をかしげてしまいます。満足いく発表と質疑応答ができた4年生、積極的に発表を聞きに来た3年生は少なかつたのではないのでしょうか。しかし、学生が自分の研究を発表する機会はあると思います。私は、烏合会をその貴重な機会だと捉えています。そのような烏合会を今年も開催できたことは大きな収穫だと私は思っています。たとえ多少の失敗があっても、学生が作り上げるということが重要だと、今回の発表会で感じました。これから学生による烏合会が開催されるようになれば、今年の烏合会は成功といえるのではないのでしょうか。



本学情報システム学科で「日本技術者教育認定機構(JABEE)による試行審査」が実施

情報システム学科長 竹並 輝之

日本技術者教育認定制度について

日本技術者認定制度は、高度教育機関において技術者の基礎教育を行なっているプログラムを認定する制度であり、その認定団体が日本技術者認定機構(JABEE)です。

「制度の目的は、認定基準を満たしていると認定された技術者教育プログラムを公表することで、認定されたプログラムの修了生が、将来技術職等につくために必要な教育を受けていることを社会に知らせることです。従って、JABEEによる審査は、教育プログラム学科やコースの内容や質を保証するためのもので、大学の提示する教育目標が、JABEEの要求する教育成果を含み、国際的な同等性を満たしているかどうかチェックされます。」

対象領域は、現時点で12の工学分野であり、情報系も含まれる。Information System System領域では、今年度から試行審査が始まり、情報処理学会より本学と若

手県立大学に協力依頼があり、試行審査を受けた。審査は、JABEEに委託された機関(情報系は情報処理学会と電子情報通信学会が中心)に設けられた審査委員会の審査チームが、自己点検書(JABEEの指定様式)と実地訪問により行われました。将来、認定されたプログラムの修了生(卒業生の中でJABEEの評価基準を満たしているもの)には認定書を交付し、技術士資格一次試験免除の優遇措置が与えられるものです。

単位互換制度

本学情報文化学科と新潟経営大学経営情報学部、新潟産業大学経済学部、新潟大学経済学部の四校による単位互換制度の調印式が11月29日新大で行われ、単位互換制度は学生間の交流促進や教育の充実を目的に実施。本学の根本公・情報文化学科長は「学生の選択の幅を広げ、勉学のチャンスを増やせるし、活用してほしい」と語った。なお、新潟大学人文学部等との単位互換は平成十四年から始まっています。



学事日程(2003)

1月	6日	授業開始
	20日	後期授業終了
	21~27日	後期定期試験
	18, 19日	センター試験(本学会場)
2月	3日	前期入学試験
3月	10日	後期入学試験
	15日~	春期休業
	20日	卒業式
	31日	学年終了

本年度卒業式

- 開式/平成15年3月20日(木)午後1時~
- 会場/新潟市芸術文化会館



ゼミ訪問

情報文化学科3・4年 佐々木 寛ゼミ

ゼミ研修旅行で毎年、韓国へ

佐々木(寛)ゼミでは、最終的に卒業論文の作成を目指すべく個々のテーマに応じて多種多様なテキストを読みこんでゆくのもちろんのこと、必要に応じて調査旅行やフィールドワークも行ないます。そしてその環として、毎年海外に、「平和研修旅行」に出かけます。いわゆる「従軍慰安婦」のハルモ二(おばあさん)たちが共同生活をしている韓国の「ナヌムの家」へ訪れるのは今年で3年目になりました。かつて日本人がアジアの人々に与えてしまった傷跡から目をそむけることなく、むしろその歴史的な経験や事実から出発することで、新しい時代の国際的な共生のあり方を考えるためです。もちろん事前に学習してからいくわけですが、勉強をすればするほど、歴史的な事実を知れば知るほど、ハルモ二たちに会うのが心苦しくなります。それで毎回すいぶん緊張しながら訪れるわけですが、ハルモ二たちはいつもわれわれを大らかにあたかく歓迎してくださるので、はじめは驚き次に必ず深い感動を経験することになります。ハルモ二たちの肉声を通じて、彼女たちが本当に憎んでいるものは何か、本当に大切に愛しているものは何かを知ることが、それまでの薄っぺらな世界観や人間観が吹き飛んでしまいます。「国際理解」とは何か、本当の「歴史認識」とは何か、頭でつかの理屈ばかりでは分からないことが、実際に訪れてから全体で経験することによって、見えてくることもあります。



本学学生が

「日本経済超入門」

を自費出版

本学の学生四人が日本経済のキーワードを解説した「私にも楽しくわかる！日本経済超入門」をこのほど出版した。出版したのは情熱システム学科三年で安達ゼミの4人。同書は「バブルの崩壊」「金融機関破たん」「失業率」など七章構成となっている。

◆著者のコメント◆

石田 貴志

原稿の作成から、販売まで全てが良い経験となりました。

小林 香代

学生生活の中で形になって残るものを友人といっしょに作れたことが良かったです。

山口 理恵

本の制作、販売等いろいろな苦労がありました。その分、私自身の勉強になったこともたくさんあります。とても良い経験となりました。

和田 葉子

製作中はとても大変でしたが、その中で多くのことを得ました。今では満足感でいっぱいです。



ご希望の方は、下記方法にてお申し込み下さい。

本の代金 一冊:500円(税込み)

送料 一冊 210円
二冊 310円

氏名、住所、電話番号を記入の上、代金を受取人を指定しない郵便普通通為替にかえて、下記の住所までお送りください。

〒950-2292
新潟市みずき野3丁目1番1号
新潟国際情報大学
安達 巧 研究室

新潟ビジネスメッセ

◆出展◆

私たち宗澤ゼミ(SWAN,オーゼミ)は、11月8、9日の二日間、新潟県産業振興センターで行われた新潟ビジネスメッセに参加しました。ビジネスメッセとは、中小企業の活性化を目的に開かれたイベントで、毎年新潟県を中心に全国からさまざまな企業が参加しています。今回はOPEN NUISというサバーバーに入れている三条、燕の企業のホームページをVisual Basicを使って分野別に検索できるシステムを構築し、閲覧できるようにしました。最終的な目標は、そこから新しいビジネスを生み出し、新潟の中小企業を活性化させるというのですが、初参加の今年はデータベースの紹介までに留まりました。

イベント当日は、あまりパソコンに触れたことのない方、中小企業を経営している方、システムをつくるプロの方など、多くの方々にシステムに触れていただくことができました。実際に使う立場の人から意見や要望を聞き、多くの課題を発見することができました。また、そうしたシステムを望んでいる方々は多く、完成すれば新潟の活性化に大きく貢献できるという手ごたえや期待も感じられました。

今回は準備不足といったこともあり十分に満足できるものではありませんでしたが、この成果は卒業研究に活かそうと思っています。また今回参加した3年生が興味を持って引き継ぐので、より良いシステムの完成を来年に期待したいと思います。



ロシア史概説

10月7日(月) 【極東から見るロシア史】

講師: 極東国立総合大学 東洋大学 日本学部長 アレクサンドル・シュヌイルコ氏

環日本海論

10月9日(水) 【ロシア極東の現状】

講師: 極東国立総合大学 東洋大学 日本学部長 アレクサンドル・シュヌイルコ氏

中国史概説

11月21日(木) 【日中関係の回顧と展望】

講師: 北京師範大学歴史学教授 楊 寧一氏

情報システム特論

第1回 10月12日(土) 【IT政策】

テーマ: 新潟県の情報政策

講師: 新潟県総合政策部情報政策課長 中野雅至氏

第2回 10月26日(土) 【IT技術】

テーマ: ブロードバンド&モバイル最新動向とシステムサプライヤの事業戦略

講師: 日本電気(株)ニューITエバンジェリスト 林 雄代氏

第3回 11月9日(土) 【ITインパクト分野(1)】

テーマ: e-ラーニングの最新動向

講師: ウィルソン・ラーニングワールドワイド(株)取締役 三浦邦夫氏

第4回 11月16日(土) 【ITインパクト分野(2)】

テーマ: EC(電子商取引)の動向と県内事例

講師: 新潟県商工会連合会指導部情報課長代理 辻川正敏氏

第5回 11月30日(土) 【ITサービス産業と人材】

テーマ: ITサービス市場動向と期待する技術者像

講師: NECソフト(株)執行役員常務 新潟支社長 宮崎 勲氏

特別講義

タイでの在外研究

情報文化学科 助教授 高橋 正樹



Masaki Takahashi

わたしは2001年の夏から1年間、教員の研究活動を支援するための本学の「海外研修制度」によって、タイのバンコクに滞在して研究に専念する機会を得ました。わたしのような外国研究をしている者にとって、日本を離れて長期間、外国に滞在しながら研究に専念できることは大変ありがたいことでした。

今回のわたしの研究テーマは、いわゆるグローバル化のなか、その歴史的背景はどこにあるのかといったものでした。タイは1997年7月に発生した金融危機の痛手から脱出しつつあるように思われますが、経済は中国と競合し、また深い経済関係をもつ日本の景気が悪いことから決して良くはありません。バンコクは90年代に高層ビルが林立しその景観を大きく変えましたが、金融危機により建設が中断された高層ビルも多く残ったままです。また、タイの人口の半分以上を占める農民は、より過酷な状態に置かれており、都市と農村の矛盾が深刻化しています。歴史的にバンコクは、世界との繋がりで発展してきた都市であったのでこの矛盾はより解決が困難なようです。

宗澤拓郎教授 日米i-ビジネスセミナー開催

宗澤教授は、8月28、29日の両日、ホテルオークラ新潟で米国のミシシッピ州立大学のJ. P. シム教授との共同主催で「日米i-ビジネスセミナー」を開催しました。これは日本学術振興会と米国のナショナル・サイエンス・ファンデーションの助成を受け、インターネットや携帯電話を活用した電子取引に関するものでした。

北極圏調査

情報文化学科 助教授
澤口 晋一



Shinichi Sawaguchi

カナダ北極圏「エルズミア島」。
ご存知だろうか？

そもそも国土が北方に偏るカナダの中でも最も北に位置する島、それがエルズミア島である。北極点もそう遠くはない。島の面積(196,236km²)は日本の本州よりひと回り小さいが、その6割は厚い氷河に覆われ、残りの土地もツンドラあるいは極地砂漠と呼ばれる凍てつた大地によって占められる。私は、日本の国立極地研究所とカナダのトロント大学との共同研究(北極域ツンドラ環境変動の研究)特定研究B研究代表者、神田啓史のメンバーの員として昨夏と今夏、約1カ月ずつこの島での現地調査に参加した。

それにしても、
こんな所でいったい何を調べるのか？

先ほど凍てつた大地と書いたが、それでも夏には地表から数10cmほどの深さまで凍土は融解する。そしてそこには、なぜここにとしか思えないような可憐な極地植物が花を競う。その美しさはとうてい言葉にならないが、実は、この植物たちこそがこの研究の主役の一つなのである。

近年、地球温暖化が大きな問題となっていることは周知の通りである。この温暖化に最も敏感に反応するのは極地や高山であると考えられている。事実、極北地域の氷河の多くは急速に後退しつつある。私に与えられた

課題はこの氷河の後退過程を平面的・時間的に明らかにすることであるが、氷河の後退と連動して生物の生態系にも様々な変動の兆しが現れつつある。この変動を確実に捉えるためには、長期にわたる現地での様々なモニタリングが必要となる。その指標として重要な役割を担うのが先ほどの極地植物たちなのである。

そしてその動態が極地さらには地球全体の生態系変動のメカニズムを解き明かす鍵ともなる。何を調べるのか？それは氷河と一株の花と植物そして地球環境興味は尽きない。



北緯82°に咲く花 Arctic poppy (ケシのなかま)

教員の研究活動

2002年4月〜12月までの出版及び学会報告

出版

- 安達 巧助教授
『企業倫理とコーポレートガバナンス―知的資産の有効活用―』創成社、2002年9月、単著。
- 安達巧助教授「私にも楽しく分かる―日本経済超入門―」安達巧助研究室、2002年10月
- アレクサンドル・ブラッソー教授
『明治時代の教育研究(ロシア語)タリナワカ(ロシア)』2002年9月、単著。
- 安藤 潤講師
『IT革命時代の経済と政府』文眞堂、2002年9月、共著。
- 熊谷 卓講師
『ファンタズマル法学講座・国際法』不磨書房、2002年4月、共著。
- 佐々木 寛講師
『現代市民政治論』世織書房、2002年12月、共著。
『アモクラシと世界秩序―地球市民の政治』NTT出版、2002年12月、共著。

学会報告

- 安達 巧助教授
1「倒産企業における会計数値の意味と役割」日本会計研究学会第61回大会、2002年9月13日、武蔵大学。
- 2「知的資産の会計数値化と監査の可能性」日本インベスター・リレーションズ学会第2回大会、2002年10月19日、國學院大学。
- 臼井 陽助教授
『Involving Environmental Norms in the European Union, JACES(英国EU学会)』2002年6月2日、ベルファスト・クイーンズ大学。
- 正田 達夫教授
「広告としてのウェブサイトとインタラクティブ性」企業ウェブサイトの現状と問題点」日本広告学会第33回全国大会、2002年10月20日、独協大学。
- 原口 武彦教授
「アフリカの部族とEthnicity論」日本アフリカ学会第39回学会大会、2002年9月29日、東北大学。
- 藤瀬 武彦教授
「歩行トレーニング時の高酸素吸入が皮膚脂肪厚及び体周りに及ぼす効果」新潟県体育学会平成14年度大会、2002年10月26日、新潟県健康づくりスポーツ医学センター。
- 宗澤 拓郎教授
『The R&D Strategy of Excellent Electronic Companies, ICMT2002, 2002年10月23日から27日、杭州大学(中国)』



去る10月19日(土)、20日(日)の両日において紅翔祭が開催されました。

学園祭「メインイベント」

●キャンパスミートングテーマ「10周年を迎えて」のもと、学長と学生代表4人による討論が行なわれました。本学の将来像について真剣に話し合いました。

●ライブ！本学開学以来本格的なライブイベントが体育館でおこなわれました。ガガガSPの演奏に650名を超える顧客が熱狂しました。

●文化講演会Ⅱ演題「人生のいろは」、講師 大沢啓二氏、聴衆人数360名

紅翔祭を終えて――

実行委員会 渡辺 隼一

平成14年度紅翔祭も皆様のご協力のおかげで無事に終えることができました。

今年の紅翔祭はいかがだったでしょうか。今年は「例年以上に紅翔祭を盛り上げよう」の合言葉の下、新人らしく良くも悪くも色々新しい企画を立ち上げました。サークルの模擬店を従来の中庭から学生玄関前にしたことによって、これまでより一層お祭りらしい雰囲気を出すことができましたのではないかと思います。学長にもご出席いただいたキャンパスミートングは好評を博し、父母会同窓会の皆様主催の大沢啓二氏の講演会では360人の来客があり、大盛況のうちに幕を閉じました。また本学初の試みとなった、ガガガSPによるライブイベントも650名もの来客があり、大きな混乱や怪我人を出すこともなく無事に終えることができました。

紅翔祭実行委員長として紅翔祭という新潟国際情報大学で最も大きなイベントに携わり、かけがえのない友人達との貴重な経験や思い出を作ることができたことは、自分にとって大きなプラスになりました。

最後に、紅翔祭を終え、紅翔祭実行委員会・学友会を代表して、悪天候のなかご来場いただいた多くの方々をはじめ職員ならびにご協力いただいたすべての方々に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。是非来年も宜しくお願いいたします。



資格取得奨励奨学金

この奨学金は大学が資格取得を奨励するために昨年度から設けた奨学金です。大学が指定した各種資格・検定資格に合格した者に、申請に基づき表彰のうえ奨学金を給付するものです。昨年はⅠ種(5万円)1名、Ⅱ種(2万円)47名に奨学金が給付されました。学生のみなさんが、各種資格・検定試験に積極的に挑戦し合格して、自信を付けることにも、就職活動をはじめ各人のこれからの人生に活かして欲しいと思います。

(今年度の表彰式は1月15日に行われます。)

課外活動結果報告

日付	団体名	大会名	開催場所	大会結果
8月 7日	バドミントン	第47回北信越学生バドミントン選手権大会	福 井	岡シングル3位、岡・西須ダブルス準優勝
10月12日	ESS	オラトリカルスピーチコンテスト	富 山	スピーチコンテスト小幡征史3位
10月20日	バドミントン	第50回田村杯争奪兼第15回市嶋杯争奪バドミントン選手権大会	上越市	岡・西須ペアベスト4 岡・西須シングルベスト4
10月26日	陸上競技	第86回日本陸上競技選手権リレー大会	神奈川	全国大会400Mリレー(梅津、小林、石川、武田)
11月 7日	バドミントン	第47回北信越大学バドミントン選手権大会	富 山	男子2部2位。女子団体1部2位

就職活動 スタート

「3年次生の就職活動がスタート」

3年次生の就職活動が年を明けると本格的にスタートします。既に、年間10回のガイダンスのうち8回を終了しました。この間「就職に対する考え方」「就職活動体験談」「企業が求める学生像」「自己分析の方法」等々を行ない、学生にとって就職が、ある程度具体的になつてきたことと思います。1月からは、個別面談、模擬面接、学内合同企業説明会そして、新年度にはいよいよ就職活動の本番を迎えます。就職指導委員をはじめ、教職員が一体となつて学生のサポートをして参りますが、最も重要なことは学生一人一人の最後まで戦い抜く強い気持ちです。そこで、就職を決めるための、いくつかの要点を記します。

- (1) 自分の適性、希望を明確にする(自己分析)
- (2) 業界研究、企業研究をする(エントリー、資料請求等をしつかりする)
- (3) 社会人としてのマナー、エチケット等を日頃から徹底する(言葉づかい、服装、髪型、他)
- (4) 自己PR等の実践(就職課でも模擬面接指導をしています)
- (5) 簡単に就職が決まらないのは当たり前。原因を考え、次に生かす。最後まであきらめず粘り強く活動する
- (6) 早目早目に就職に相談する(一)

以上が就職が決するまでの道のりですが、頭でなんとなくわかっていても初めての経験で不安なことは多いと思います。どうぞご父母の皆さんからもぜひ相談相手として励ましてくださいますようお願い申し上げます。

就職課は、学生の就職活動を支援するためにあります。心配事やわからない事、どんな些細なことでも遠慮せず相談するようお願い申し上げます。ご指導くださるようお願い申し上げます。



企業懇談会

今年も11月6日(水)ホテル新瑞に於いて、恒例の「企業懇談会」が開催され、県内外から230名の方々の参加をいただき大変盛況となりました。

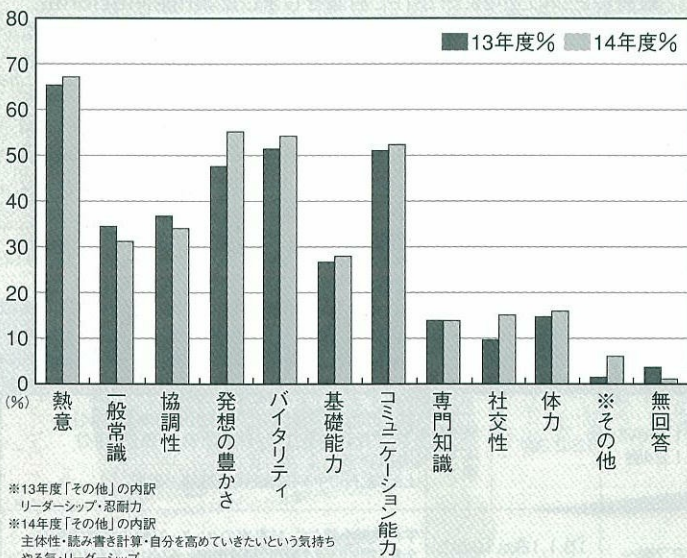
この懇談会は、学生の就職活動支援の一環として企業の代表者や人事担当者をお招き、本学をご理解いただき、同時に、就職活動への協力に対する感謝の会として毎年秋に開催しています。

当日は第一部として、榎本学部長の挨拶、各学科長による学科説明の後、特別講演として、経済評論家 明治大学政治経済学部教授の高木勝様の講演「2003年の日本経済」について講演をいただきました。

引き続き第二部として、懇親会がNKK新潟支社長の嶋岡健治様の乾杯の発声で始まり、教職員は各テーブルを回り、卒業生の活躍の様子を聞いたり、次年度の採用計画の確認をしたりと名刺を片手に情報交換される姿が目につきました。



■企業懇談会アンケート 大学生に求める資質(複数回答あり)



就職活動を終えて

私は運よく自分が希望していた職種で4月から働けることになりました。アドバンスといえるかわかりませんが、私が就職活動を通して得たことをいかに活かしていきたいと思います。まず1つ目は合同企業説明会。参加企業が少なくても行って話を聞いておきたいと思っていました。自分から少しも興味を持った企業は試験を受けてみるというところ。そして、あきらめずに頑張るということです。どれも就職活動をする中で当たり前のことだと言われそうですが、後になって自分が後悔しないために、頑張るしかないと思います。

情報システム学科4年 笠原里絵

私は、内定先の会社で働けることをとても楽しみにしながら、様々な悩みや不安を抱えながら働いていました。この会社で内定が決まったことを切っ掛けとして、就職活動は人生の大きな転機です。早い時期から自分の興味のある事をもっと情報収集しておきたいです。

情報システム学科4年 上村 天

心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば環境が変わる。環境が変われば日常が変わる。日常が変われば人生が変わる。人生が変われば運命が変わる。就職に関しては運命が変われば、最終的に自分の人生、運命が自ずと変わっていくと思います。他人のためではなく、自分のことなので、最後までがんばりたい。

情報文化学科4年 川大輔

私が就職活動中に最も力を入れたのは履歴書、自己PR、具体的なターゲット、志望動機を関連付けて考えること。これを面接や試験の前には準備しておけば、どのような質問をされても自分の話の筋道を明確にすることが出来る。話があるところから話せばいい。皆さんも自分なりに話の筋道を明確にして試験に臨んでください。

情報文化学科4年 出来島佑子

就職活動を始めると、まずしなければならぬのは「自分が何をしたいのか」という目的意識を持つことです。でも、明確な目的を持つことは難しいです。私もそうでした。「自分が何になりたいのか?」「自分が会社に求める条件ってなんだろう?」などと考えていることが出てきます。そこで、分からないことだらけの私は、とにかく様々な分野のいろいろな会社を訪問してみたいと思いました。レジャー、量販店、教育、出版、印刷、住宅建設、情報産業、...、合同企業説明会やインターネット検索などで、少しでも興味がある会社には積極的に訪問しました。その中には人事担当の人や他大学の学生との出会いがあります。そして多くの人と触れ合うことで「自分の位置」というものが見えるようになってきます。私は初めマスコミ関係の仕事がしたいと熱望していましたが、視野を広げることでようやく本心に自分やりたい、自分と合っているのは出版印刷業の仕事であることが分かりました。面接のときも、多くの会社に触れた私は、応募するところでも多く、うまく質問に答えることができました。結果、5社の会社から内定をもらうことが出来ました。このように積極的に、元気に就職活動をしていけば、絶対に内定が取れます!!「若さ」を大切に就職活動を頑張ってください。

情報文化学科4年 西条由手

私は3年次の秋頃から就職活動を始め、最初は就職を希望する企業などに資料請求を行い、それと平行して、筆記試験の勉強をしました。希望する職種が就職活動の準備を仕掛けていこうと決めたので、自動車のディーラーへの就職を望んでいました。就職活動を開始した頃は、そんなに苦労しなくても内定が貰えるだろうとばかりに考えていたが、5月下旬頃から周りの友人たちが次々と内定を企業から貰いながら、自分だけが内定をつかまぬ状況に陥っていき、焦りを感じていました。焦りはかき消さず、結果がでない悪循環を断ち切るために、もう一度自分が何をしたいかを真剣に考え、気持ちを切り替えて就職活動することにしたのです。結果、どうにかはまりました。私は7社の企業から採用試験を受け、幸いその中の1社の企業から内定を頂くことができました。最後に私が就職活動に対するアドバイスは、企業研究や自己分析を行うのは当然ですが、採用試験を受けてその結果が駄目だったとしても、最後まで諦めないことが大切だと思います。そして就職活動をするにあたり、適当にやっていると内定をもらえないという不安な考えは捨ててください。それほど就職活動は厳しく、かつ面白い。

情報システム学科4年 丸田善治

卒業生の便り

ドコモ・システムズ(株)

(情報システム学科 平成9年度卒)

遠藤 佳弘



情報システム学科を卒業し、早いもので丸5年の歳月が過ぎようとしています。現在私はドコモ・システムズ(株)に籍を置き、(株)NTTドコモの新潟支店に常駐する形で

社内システムの運用・管理を行っています。

ドコモは電気通信事業者であり、移动通信事業の草分けであることは既知のとおりであるかと思いますが、ドコモ・システムズとしては親会社であるドコモを中心に官庁等公共団体をお客様としたシステム開発を行っています。業種柄、その分野の最先端技術に触れることもしばしばですが、その都度興奮を覚えて止まない環境を楽しく過ごしています。

私事の近況になりますが、この1月1日を以てドコモ本社の情報システム部内に異動となり、そこでJavaとCORBAによる世界最大のオープンシステムの開発に携わることとなりました。すでに稼働しているドコモグループ内すべての人・物・金・情報の流れを掌握するリアルタイム・マネジメント・システムで、この基幹システムの機能向上を図る業務を任命されています。総勢1000名弱のバンダーで構成された開発部隊と連携をとりながらの任務に不安もありますが、自分への挑戦と思い頑張っているつもりです。

システム開発・運用・管理と、大学で身に付けたことを活かしつつも、それは社会で身に付けたことのほんの一部であり、システムは大勢の人間模様が介在した上で初めて使い物になるものだと同時に実感し、その様子を目の当たりにすることで使い手とシステムを橋渡しすることの重要性を肌で感じています。システムの根底には間違いなく人間があり、信頼の上に成り立つ人間関係があってこそ円滑な業務運営が可能で、それを支援するシステムを用い、究極のシステムマネジメントが実現できるのではないかと考えます。

偏った考え方にとらわれず、トータルな物の見方ができる数多くの新潟国際情報大学の卒業生が社会に貢献してゆくことを期待しています。

イースト・アングリア大学大学院修士過程

(情報文化学科 平成11年度卒)

本間 千鶴



1999年3月に情報文化学科を卒業した本間千鶴さんが、今年9月にイギリスのイースト・アングリア大学大学院(University of East Anglia, Development Studies and International Relations)に入学しました。

また、同じく1999年3月に情報文化学科を卒業した川上洋子さんは、今年11月韓国・慶熙大学教育大学院修士課程(外国語としての韓国語教育専攻)に合格しました。本間さんのお便りをご紹介します。

みなさん、お元気ですか。私は修士課程が始まって、ようやく1ヶ月たちました。今はDevelopment Perspectives, Politics and Development, International Relations Theoryという3つのクラスをとっています。毎週この3つのクラスの講義と、International Relations Theoryのセミナーがあります。セミナーは毎回その週の講義に関連した題が与えられて、代表二人が簡単なプレゼンをします。そしてその後、討論といった感じです。今日はInternational Relations Theory以外の2つのクラスのセミナーがありました。こちらは一学期に2回のみです。そんな訳で忙しい一日でした。

Development Perspectivesの方はグループプレゼン、Politics and Developmentの方は市民社会、国際的なビジネスと政府の2つの立場に分かれて討論をしました。International Relationsのセミナーは毎週あるけれど、情けないところ話す機会がなくて。でも今日は両方で発言する機会があったので、自分としては満足です。来週はInternational Relationsは読書週間、その次の週は別の2つのクラスが読書週間で授業がありません。といっても休みではなく、自分で研究する為の1週間です。そして私は二つの学部のジョイントコースで学んでいるため、まるっきり1週間お休みという訳にはいきません。でも少し生活に余裕ができてと思っています。

それではまた。お体にはお気をつけください。(2002年10月23日)

◎詳細は募集要項でご確認下さい。

入 試 区 分		募 集 人 員		出 願 期 間		試 験 日		試験地		試験実施教科・科目	
一 般	前 期	情報文化学科	35	95	15.1.7(火)~ 15.1.24(金)	15.2.3(月)	新 潟 上 越 東 京	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ(いずれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ(数学は、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択			
		情報システム学科	60								
	大学入試 センター試験	情報文化学科	15	35	15.2.7(金)~ 15.2.17(月)	15.1.18(土),19(日)の 入試センター試験を 受験していること。		学科試験を課さず、15年度のセンター試験の成績で判定。 全教科の中から2教科2科目選択 配点:各教科100点 3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定 に使用			
		情報システム学科	20								
	後 期	情報文化学科	10	25	15.2.24(月)~ 15.3.5(火)	15.3.10(月)	新 潟	・国語:国語Ⅰ・国語Ⅱ(いずれも古文・漢文を除く) ・数学:数学Ⅰ・数学Ⅱ(数学は、微分・積分を除く) ・外国語:英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択			
		情報システム学科	15								

平成15年度 一般入学試験 概要 (要約一覧)

●入試に関する問い合わせ先
新潟国際情報大学学務課
〒950-2292
新潟市みすき野3丁目1番1号
電話 (025) 239-3111
FAX (025) 239-3690

幸いです。

◆さて、本学は新潟市の中央に「市街地キャンパス」を開校し、さらには、新たな発展を期しております。市街地キャンパスにおける大学の授業については、本年後期から、4年生がこの新校舎で学習します。最新の情報機器を備え、学生一人一人がコンピュータを使いながら卒業研究ができる設備を準備しております。

◆また、21世紀は生涯学習の時代と言われております。本学では、社会人も通学可能な専門大学院の設置や、市民を対象にした各種の公開講座を展開し、この市街地キャンパスが新しい情報発信基地になることを目指しております。

◆現在の情報センターの西に増築校舎が6月までは完成の予定です。1階は、情報閲覧室で、2階は「国際センター(仮称)」として、提携大学ブース、セミナールーム、サロンなど設けられ、事前研修や留学先についての学習ができます。留学先の言語のソフトが入ったパソコンも備え付けられます。

◆本号のトップでは、アメリカ・カナダ留学特集しました。カナダの研修内容について前号湧源でもややくわしく書きましたので、ご参照願えば幸いです。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 正田 達夫

明けましておめでとうございませう。

◆在校生、卒業生、父母会及び高校関係者をはじめ地域や企業の皆様を支えられて、本学も今年には十周年を迎えることとなりました。

平成六年に開学した当時は、学校の周辺は住宅地が開発中で、角田風が厳しい中を学生は凸凹道を通ったものでした。

しかし、現在は「みずき野」として数百の住宅やアパートが建ち、住宅地として形を整えつつあり、すっかり面影が変わりました。

大学の構内も、桜並木が立派に育ち、芝生も整備されて、緑にあふれた素晴らしいキャンパスになっています。

◆6月8日には、開学十周年を記念して記念式典を催し、過去を振り返るとともに、次の十年へ向けての行動を起こします。

また、同時に講演会、学術シンポジウムが開催されます。このシンポジウムでは、「国際化・情報化と大学の役割」をテーマに、提携している中国・韓国・ロシア・アメリカ・カナダの各大学の先生方が参加されます。詳細は、次号の本紙で発表の予定です。